

グリーン経営取得 燃費・事故数に効果

交通エコモ財団がバス・タク集計

燃費1・5%改善

「グリーン経営」認証を取得しているバス・タクシー事業者の燃費が向上し、二酸化炭素(CO₂)排出量、交通事故件数、車両故障が軒並み減っていることが、交通エコロジー・モビリティ財団が10日まとめた2011年度版「効果分析結果」で分かった。認証取得2年後・更新時のタクシーの平均燃費は1リットル当たり5・55^キで1・5%改善。バスは3・31^キ、2・9%上昇した。

効果分析は04～10年度の

データを基礎に、専門の委員会(委員長石谷久・新

エネルギー導入促進協議会

代表理事)で検証した。バス・タクシー業界からは神

奈川中央交通の堀康紀専務、三ツ矢観光自動車の藤本國男会長らが参画している。トラック、倉庫業、港湾運送も調べた。

CO₂排出量の算出は認証申請時の年間総走行距離と2年後の燃費数値を用いて推計。タクシーは2・8%

、バスは4・9%削減となった。事故・車両故障件数は走行距離10万^キ当たりで弾き出し、タクシーの事故は前年比10・5%、故障11・9%、バスは事故14・1%、故障5・0%それぞれ減った。

ただ、燃費の変化について、分析結果の評価では「燃費が良かった事業者は改善が頭打ちとなり、低下する傾向も見られる。改善し得る限界に近づいている」と指摘。

特にタクシーの数値が近年滞っている背景として「客待ち時のアイドリング時間が伸び、長距離客の減少によって走行時の燃費が

低下していることが考えられる」とした。認証取得事業者にグリーン経営のメリットを問うアンケート調査も実施した。タクシーは「職場のモラル・士気が向上した」との回答が83・7%と最多。「燃費が向上した」76・1%、「事故が減った」47・2%、「利用者からの評価が高まり、取引上の優遇も」29・4%などが目立った。

グリーン経営事業者の全国台数規模は9月末時点、タクシー3万1641台(法人全台数の15・1%)、バス1万8166台(全台数の16・8%)。都道府県別ではバスが滋賀、奈良、福岡の3県で過半数を占め、タクシーは東京と愛知で半

数に迫っている。国際規格「ISO14001」(環境マネジメントシステム)の取得が困難な中小企業向けに03年、国土交通省の規格として制度創設され、以降、認証数は右肩上がりで見えている。

「客待ち時のアイドリング時間が伸び、長距離客の減少によって走行時の燃費が

低下していることが考えられる」とした。

認証取得事業者にグリーン経営のメリットを問うアンケート調査も実施した。タクシーは「職場のモラル・士気が向上した」との回答が83・7%と最多。「燃費が向上した」76・1%、「事故が減った」47・2%、「利用者からの評価が高まり、取引上の優遇も」29・4%などが目立った。